

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	西原 希里子 (にしはら きりこ)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	修士課程 2年
発表年月 または事業開催年月	2022年 11月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本ストレスマネジメント学会第20回学術大会・研修会
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	西原希里子・三井梓実・姜来娜・嶋田洋徳
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	青年期における般化されたプライアンスの変容におけるストレスマネジメント教育の効果
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p>【目的】 本研究では、従来のストレスマネジメント教育 (以下、SME) に認知的フュージョンを低減させることを目的とした脱フュージョンの手続きを加えた SME が、コーピングの実行に及ぼす影響について検討することを目的とした。</p> <p>【方法】 研究協力者 関東圏の公立中学校に在籍する中学1年生～3年生 291名のデータを分析対象とした。 測度 過剰適応 (青年期前期過剰適応尺度; 石津, 2006), 般化されたプライアンス (GPQ-C; Salazar et al., 2018) を本研究にて翻訳, 認知的フュージョン (日本語版 AFQ-Y; 細尾他, 2015), コーピングの実行 (TAC-24 中学生・高校生版; 増田他, 2010) を一部改変して用いた。 手続き 従来の SME のみを行う標準群と, 従来型 SME に脱フュージョンを促すことを目的とした介入を加えた介入群の2群に分けて授業を実施した。 倫理的配慮 本研究は早稲田大学の「人を対象とする研究に関する倫理審査委員会」の承認を得て実施された (承認番号: 2020-215)。</p> <p>【結果・考察】 介入による脱フュージョンの効果を検討するため, 認知的フュージョンと般化されたプライアンスをそれぞれお従属変数, 介入方法 (標準群, 介入群) と群 (過剰適応高群, 中群, 低群) と時期 (pre, post, follow-up) を独立変数として分散分析を行った。その結果, 従来型 SME に脱フュージョンの手続きを加えた介入が般化されたプライアンスの低減に有効であることが示された。さらに, 介入によるコーピングの実行の効果を検討するため, コーピングの実行を従属変数, 介入方法と群と時期を独立変数として分散分析を行った。その結果, むしろ従来型 SME のみを行うことがコーピングの実行の増加に有効であることが確認された。本研究の結果からは, 般化されたプライアンスの低減は示されたものの, コーピングの実行の増加は示されなかった。今後は, プログラムの効果を左右する要因とされる実施順序等を考慮することによって, より効果の向上が期待されるプログラムの体系化を行うことが可能になると考えられる。</p>	

※無断転載禁止